

令和7年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果について

横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が、地方独立行政法人法に基づき、令和7年度における公立大学法人横浜市立大学（以下「市大」という。）の業務の実績に関する評価を実施しましたので、その概要を報告します。

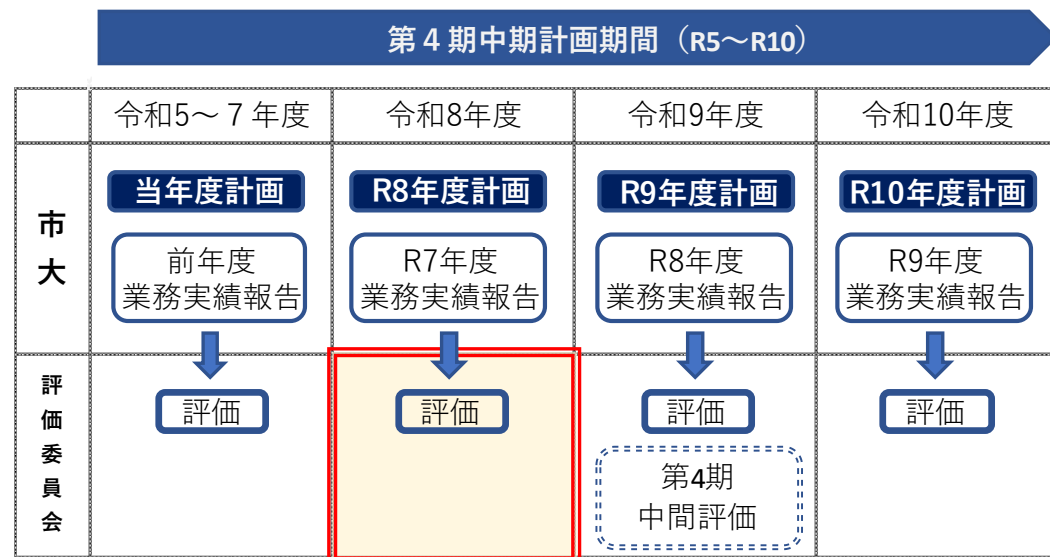
1 令和7年度「公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果」（以下「評価結果書」）の総評（抜粋）

評価委員会として、第4期中期計画の3年目となる令和7年度は、少子高齢化の進展に加えて、物価高騰や人件費上昇といった収益悪化に繋がる社会情勢が続く中で、教育、研究、医療、法人経営等の各分野で、計画に基づく具体的な取組が着実に進展し、法人の経営改善に向けた努力もより顕著に認められたなどと総評されています。

教育分野：5項目、研究分野：3項目、医療分野：4項目、法人経営分野：8項目、その他：3項目の合計23項目について評価を実施しました。

【参考】市大と評価委員会の関係について

市大は、市会の議決を経て、市が定めた中期目標の達成に向け、自らが策定した中期計画や年度計画に基づいて、自主・自律的な大学運営を推進します。また、市大は中期目標期間及び各事業年度における業務の実績について、評価委員会の評価を受けます。



2 項目別評価一覧

S: 計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある A: 計画を上回って実施している
B: 計画どおり実施している C: 計画を十分に実施していない D: 重大な改善事項がある

項 目		評 価	S	A	B	C	D
I 教育	1 新たな時代を見据えた教育の提供			○			
	2 5学部6研究科における教育の充実				○		
	3 時代に即した学修環境・学生支援の提供				○		
	4 多様で優秀な人材の獲得と輩出				○		
	5 社会人の学び直し				○		
II 研究	1 先進的・学際的研究等の推進					○	
	2 オープンイノベーションの推進			○			
	3 研究基盤の強化及び支援体制の整備				○		
III 医療	1 患者本位の医療の提供と患者安全の取組			○			
	2 質の高い医療の提供	○					
	3 政策的医療への貢献、地域医療の推進				○		
	4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用				○		
IV 法人経営	1 経営改革を強力に推進するガバナンスの強化				○		
	2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保				○		
	3 コンプライアンス推進、リスクマネジメントの確立				○		
	4 教職員エンゲージメントの向上					○	
	5 YCUの価値向上				○		
	6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進				○		
	7 医学部・病院再整備事業を見据えた取組の推進				○		
	8 環境への配慮や交流を意識したキャンパスづくり				○		
V 自己点検及び評価					○		
VI 地域貢献（横断的項目）				○			
VII グローバル展開（横断的項目）					○		
各評価の合計（全23項目）			1	4	16	2	0

3 標準(B)評価以外の取組項目

7 年度実績の主な取組	評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）	評価												
I　教育														
1. 新たな時代を見据えた教育の提供【評価結果※：5 ページ】※ 令和7年度「公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果」														
＜教育の質保証について＞ ・高等教育推進センターの教学IR※¹部門とFD※²・SD※³部門が連携し、教学IR、FD・SDの取組を全学として推進。学生視点を取り入れた教育改善を図るために、学生参画型のFD・SD研修会を実施。 ・第4期大学機関別認証評価の受審機関を確定し、受審に向けた事前調査や改善対応を進め、評価機関の理事を招いた学内研修会を開催し、学内の意識醸成を進めた。 ＜グローバル教育について＞ ・海外学生派遣では、YCU100募金やJASSO協定派遣奨学金等の外部資金を活用した海外渡航支援を行い、特に長期交換留学生に対し9割近い学生に外部資金による奨学金支給を実現。 ・海外大学等との戦略的・持続的な連携を進め、学生ニーズの高いエリアを中心に新たに7校との交換留学協定を締結。 ・交換留学生による学内での交流活動の推進にも力を入れ、YCU学生との交流を促進。 ※1　IR（Institutional Research）：計画立案、政策形成及び意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能 ※2　FD（Faculty Development）：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組 ※3　SD（Staff Development）：教職員の職能開発のための組織的な取組	○教学 IR と FD・SD との連携、<u>学生参加型の FD・SD 研修会の実施など、教育の質向上のための取組を積極的に進めている。</u>また、認証評価の受審に向けて学内の意識醸成も進んでいる。 ○<u>外部資金の獲得により奨学金を多くの学生に支給、長期留学人数を増加させた点は評価</u>できる。 ○教育の質保証にかかる外部評価で上位評価を受けており、<u>グローバル教育の分野でも外部資金による留学生支援を実施</u>している。 ●<u>海外学生派遣の支援の拡大は評価できるが、短期派遣数は減少しており、更なる派遣拡大に向けた取組を期待</u>する。 <table><thead><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>◆教学IR と連動したFD 実施回数：1 回/年</td><td>3 回/年</td></tr><tr><td>◆FD・SD 受講率：85%/年</td><td>教員受講率89%/年</td></tr><tr><td>◆学生満足度（共通教養カリキュラム評価関連）：83%/年</td><td>89%/年</td></tr><tr><td>◆数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）履修率：50%/年</td><td>64%/年</td></tr><tr><td>◆領域横断型プログラム修了者数（数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを除く）：60 人/年＜中期計画：300 人/期間中＞</td><td>65 人/年</td></tr></tbody></table> ◆＝第4期中期計画指標	R7指標	R7実績	◆教学IR と連動したFD 実施回数：1 回/年	3 回/年	◆FD・SD 受講率：85%/年	教員受講率89%/年	◆学生満足度（共通教養カリキュラム評価関連）：83%/年	89%/年	◆数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）履修率：50%/年	64%/年	◆領域横断型プログラム修了者数（数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを除く）：60 人/年＜中期計画：300 人/期間中＞	65 人/年	A
R7指標	R7実績													
◆教学IR と連動したFD 実施回数：1 回/年	3 回/年													
◆FD・SD 受講率：85%/年	教員受講率89%/年													
◆学生満足度（共通教養カリキュラム評価関連）：83%/年	89%/年													
◆数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）履修率：50%/年	64%/年													
◆領域横断型プログラム修了者数（数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを除く）：60 人/年＜中期計画：300 人/期間中＞	65 人/年													

7 年度実績の主な取組		評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）		評価										
Ⅱ　研究														
1．先進的・学際的研究等の推進【評価結果：8 ページ】														
＜産学連携の推進について＞ - 研究者の相談に対して社会実装までの戦略を立案し、必要なリソース確保のため、企業や行政等との連携体制を構築した。その結果、企業との共同研究15件の創出、AMED事業課題3件の採択により、合計3億円以上の外部資金獲得につなげた。 ＜臨床研究の推進について＞ - 横浜臨床研究ネットワークの連携強化を行い、製薬企業との活用検討を進めた。臨床研究指導員・管理員の体制を活用し、説明会やヒアリングを行い、支援ニーズの把握に取り組んだ。また、臨床研究指導員へのワークショップを開催し、臨床研究支援の充実を図った。		○ <u>J-PEAKS※における様々な取組を進めており</u>、中核となる研究者を重点的に支援する「<u>卓越教員制度</u>」の導入や、<u>URA等の研究支援体制</u>、<u>産官学連携体制</u>、<u>臨床研究体制の充実</u>に努めている。 ※「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）： 文部科学省と日本学術振興会による大学支援プログラム （令和6年度採択大学 13大学、令和5年度採択大学 12大学） ● <u>高い目標を掲げていることもあり</u>、論文目標・臨床研究目標達成にはまだ努力が必要だが、<u>指標達成に向けて前進</u>しつつある。<u>研究時間の確保等の研究環境整備</u>や<u>臨床研究推進の施策検討に着手</u>しており、今後の取組に期待する。 ● <u>研究者の意欲</u>、<u>研究時間確保</u>などの<u>研究環境の充実に向けてコストをかけるべきものを明確化・予算化</u>し、<u>見える形にした上で進捗管理</u>すべきと考える。												
		<table><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr><tr><td>◆主要な学術誌等掲載論文数： <u>3,305 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%）</u> ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：6,610 件)＞ ※ Web of Science に掲載されたもの</td><td><u><未達></u> 3,217 件/ 5～7 年度累計 （進捗率48.7%）</td></tr><tr><td>◆主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数： 432 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%） ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：864 件)＞</td><td><u><未達></u> 337 件/5～7年度累計 （進捗率39.0%）</td></tr><tr><td>◆臨床研究法における臨床研究の実施件数： 15 件/年＜中期計画：80 件/期間中＞</td><td><u><未達></u> 9 件/年</td></tr><tr><td>◆新規治験の受入件数（医師主導治験も含む）受入件数： 【附】25 件/年【セ】22 件/年 ＜中期計画：【附】150 件/期間中【セ】130 件/期間中＞</td><td>【附】35 件/年 【セ】33 件/年</td></tr></table>			R7指標	R7実績	◆主要な学術誌等掲載論文数： <u>3,305 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%）</u> ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：6,610 件)＞ ※ Web of Science に掲載されたもの	<u><未達></u> 3,217 件/ 5～7 年度累計 （進捗率48.7%）	◆主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数： 432 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%） ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：864 件)＞	<u><未達></u> 337 件/5～7年度累計 （進捗率39.0%）	◆臨床研究法における臨床研究の実施件数： 15 件/年＜中期計画：80 件/期間中＞	<u><未達></u> 9 件/年	◆新規治験の受入件数（医師主導治験も含む）受入件数： 【附】25 件/年【セ】22 件/年 ＜中期計画：【附】150 件/期間中【セ】130 件/期間中＞	【附】35 件/年 【セ】33 件/年
R7指標	R7実績													
◆主要な学術誌等掲載論文数： <u>3,305 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%）</u> ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：6,610 件)＞ ※ Web of Science に掲載されたもの	<u><未達></u> 3,217 件/ 5～7 年度累計 （進捗率48.7%）													
◆主要な学術誌等掲載論文数に対するTop10%論文数： 432 件/5～7 年度累計（進捗率50.0%） ＜中期計画：第3期の実績10%増/期間中(累計目標：864 件)＞	<u><未達></u> 337 件/5～7年度累計 （進捗率39.0%）													
◆臨床研究法における臨床研究の実施件数： 15 件/年＜中期計画：80 件/期間中＞	<u><未達></u> 9 件/年													
◆新規治験の受入件数（医師主導治験も含む）受入件数： 【附】25 件/年【セ】22 件/年 ＜中期計画：【附】150 件/期間中【セ】130 件/期間中＞	【附】35 件/年 【セ】33 件/年													

C

7 年度実績の主な取組	評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）	評価						
2. オープンイノベーションの推進【評価結果：8 ページ】								
＜オープンイノベーションラボの活用推進、産学連携の推進について＞ ・福浦キャンパスに産官学共創オープンイノベーション研究施設「オープンイノベーションラボ」を整備し、産学連携ラボの入居募集を開始した。あわせて、「セミナールーム」の学外貸出しに向けた整備を進め、研究者・企業・行政が集う拠点形成を推進した。さらに、360 度映像空間（イマーシブスタジオ）等の機能整備を計画し、メンタルヘルス研究領域を中心とした実証実験や産学連携への活用に向けた準備を着実に推進。 ・共創イノベーションセンターを中核として、産官学連携推進の取組と連動しながら、大学・企業・自治体等の多様な主体による共創体制の強化を図った。 ＜ベンチャー支援について＞ ・J-PEAKSの取組を通じて、本学独自のカルティベーションプログラム構築について議論し、短期プログラムを企画した。また、プログラムディレクターの雇用やみなとみらいサテライトキャンパス「NANA Lv.」を活用した支援拠点整備により、大学発スタートアップ創出支援体制を強化した。	○<u>J-PEAKSの取組、オープンイノベーションラボの設置、スタートアップ創出・支援</u>など、<u>オープンイノベーション環境、産官学連携体制が前進</u>している。 ○オープンイノベーションラボの成果が、<u>ベンチャー創出数、民間との共同・受託研究数</u>に表れている。	A						
<table><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr><tr><td>◆ベンチャー創出累計数： 15 件/累計（進捗率100％） ＜中期計画：15 件/期間中＞</td><td>16 件/年</td></tr><tr><td>◆民間企業等との共同・受託研究数： 1,101 件/5～7 年度累計（進捗率50％） ＜中期計画：第3 期の実績5 ％増/期間中 （累計目標：2,202 件）＞</td><td>1,163 件/5～7 年度累計 （進捗率52.8％）</td></tr></table>			R7指標	R7実績	◆ベンチャー創出累計数： 15 件/累計（進捗率100％） ＜中期計画：15 件/期間中＞	16 件/年	◆民間企業等との共同・受託研究数： 1,101 件/5～7 年度累計（進捗率50％） ＜中期計画：第3 期の実績5 ％増/期間中 （累計目標：2,202 件）＞	1,163 件/5～7 年度累計 （進捗率52.8％）
R7指標	R7実績							
◆ベンチャー創出累計数： 15 件/累計（進捗率100％） ＜中期計画：15 件/期間中＞	16 件/年							
◆民間企業等との共同・受託研究数： 1,101 件/5～7 年度累計（進捗率50％） ＜中期計画：第3 期の実績5 ％増/期間中 （累計目標：2,202 件）＞	1,163 件/5～7 年度累計 （進捗率52.8％）							

7 年度実績の主な取組	評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）	評価										
Ⅲ　医療												
1．患者本位の医療の提供と患者安全の取組【評価結果：10ページ】												
＜患者本位の医療の提供について＞ ・令和7年度より医療安全管理部に放射線技師を専従配置したことにより、作業期間を短縮できる体制を構築。 ・低侵襲手術が可能な手術支援ロボット「ダヴィンチ5」「ダヴィンチSP」を新たに導入。 ・令和6年度の患者満足度調査結果を踏まえ、課題改善に取り組み、会計・診療受付体制や駐車場運用の見直しを進めた。 ＜外部認証への対応について＞ ・病院機能評価推進プロジェクトを立ち上げ、組織横断的な活動を開始。 ＜チーム医療の強化について＞ ・コマンドチームによって、医師・看護師・事務職等が連携して病床情報を共有し、入退院調整や課題整理に取り組んだ。 ＜ICT・DX 推進について＞ ・病院情報システムの統合に向けて、システム構築・運用を整理し、病床管理システム「コマンドセンター」を活用し、管理体制を高度化した。	○患者本位の医療提供に向けて、最新手術支援ロボットを使った低侵襲手術の拡大や会計・診療の待ち時間短縮等による利便性向上などが進められている。また、患者情報の一元管理によるチーム医療の強化や病床運用の効率化が進められている。 ○両病院長の卓越したリーダーシップにより諸課題に対応し、経営改善につながっている。 ○DXの推進とともに、サイバー攻撃への対策など、更に体制を整えることを期待する。 <table><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr><tr><td>◆患者満足度：【附】79%/年【セ】78.5%/年 ＜中期計画：【附】80%【セ】80%/最終年度＞</td><td>【附】79.4%/年 【セ】79.9%/年</td></tr><tr><td>◆医療安全管理研修受講率： 【附】100%/年【セ】100%/年</td><td>【附・セ】100%/年</td></tr><tr><td>◆クリニカルパス適用率： 【附】52%/年【セ】57%/年 ＜中期計画：【附】55%【セ】60%/最終年度＞</td><td>【附】55.7%/年 【セ】58.9%/年</td></tr><tr><td>◆DPC 入院期間以内の退院割合： 【附】76%/年【セ】75%/年 ＜中期計画：【附】76%【セ】75%/最終年度＞</td><td>【附】79.8%/年 【セ】79.4%/年</td></tr></table>	R7指標	R7実績	◆患者満足度：【附】79%/年【セ】78.5%/年 ＜中期計画：【附】80%【セ】80%/最終年度＞	【附】79.4%/年 【セ】79.9%/年	◆医療安全管理研修受講率： 【附】100%/年【セ】100%/年	【附・セ】100%/年	◆クリニカルパス適用率： 【附】52%/年【セ】57%/年 ＜中期計画：【附】55%【セ】60%/最終年度＞	【附】55.7%/年 【セ】58.9%/年	◆DPC 入院期間以内の退院割合： 【附】76%/年【セ】75%/年 ＜中期計画：【附】76%【セ】75%/最終年度＞	【附】79.8%/年 【セ】79.4%/年	A
R7指標	R7実績											
◆患者満足度：【附】79%/年【セ】78.5%/年 ＜中期計画：【附】80%【セ】80%/最終年度＞	【附】79.4%/年 【セ】79.9%/年											
◆医療安全管理研修受講率： 【附】100%/年【セ】100%/年	【附・セ】100%/年											
◆クリニカルパス適用率： 【附】52%/年【セ】57%/年 ＜中期計画：【附】55%【セ】60%/最終年度＞	【附】55.7%/年 【セ】58.9%/年											
◆DPC 入院期間以内の退院割合： 【附】76%/年【セ】75%/年 ＜中期計画：【附】76%【セ】75%/最終年度＞	【附】79.8%/年 【セ】79.4%/年											

7 年度実績の主な取組	評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）	評価										
2. 質の高い医療の提供【評価結果：10ページ】												
＜医療の質向上について＞ ・附属病院では、指標の継続的な算出およびモニタリングを可能とする体制を構築した。センター病院では、集計方法の変更により、他院と定義を揃えたベンチマークが可能となった。 ・最新式の手術支援ロボット「ダヴィンチ5」、単孔式の「SP」を新たに導入し、従来機の「Xi」と合わせて3台体制とするとともに、放射線治療装置（リニアック）を最新機種に更新し、がん診療に必要な高度医療機器を整備。 ・令和7年4月から横浜市二次救急輪番病院に参加を開始し、二次救急の受入をより積極的に推進。 ＜医療の国際化について＞ ・医療通訳サービスの充実、院内表示の多言語化、各種書式の翻訳、窓口業務の体制整備等、外国人患者が安心して医療を受けられる環境整備を推進。 ＜臨床研究中核病院の認定に向けた取組について＞ ・臨床研究の活性化に向け、臨床研究推進委員会を再整備した。他の病院へのヒアリング結果を踏まえ、各室機能の再整備や人材配置の最適化を推進。	○最新式の機器の導入を進めたこと、機能評価係数Ⅱ※の大学病院本院群で附属病院が全国1位と評価されたことなど、医療の質の向上に向けた取組が進展している。両病院とも高い救急応需率を達成していることに加えて、外国人医療受入医療機関認証をセンター病院が取得し、附属病院も令和8年度の受審の体制を整えるなど、外国人患者増加に対応する環境整備が進められている。 ※ 機能評価係数Ⅱ：厚生労働省が公表する「医療の質・効率性・地域への貢献度等を総合評価する指標」 ○院内データをリアルタイムで分析・可視化するシステムを活用し、病院長直下のプロジェクトとして医師・看護師・事務職等で構成されたコマンドチームを運用することで、組織横断的な連携を進め、病床運用の効率化が図られた。 <table><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr><tr><td>【セ】救急車受入台数：5,400 件/年 ※高度救命救急センター（三次救急）とER 部（二次救急）の運用一体化による救急患者応需体制の強化</td><td>【セ】5,878 件/年</td></tr><tr><td>◆手術件数： 【附】7,500 件/年 【セ】9,600 件/年 ＜中期計画：【附】7,500 件 【セ】9,600 件/最終年度＞</td><td>【附】7,813 件/年 【セ】10,183 件/年</td></tr><tr><td>◆先進医療申請のための先行研究着手件数： 【附】1 件/年 【セ】1 件/年</td><td>【附】2 件/年 【セ】1 件/年</td></tr><tr><td>◆救急応需率： 【附】90%/年 【セ】90%/年（三次救急）、90%/年（二次救急） ＜中期計画：【附】90% 【セ】90%/最終年度＞</td><td>【附】95.1% 【セ】97.1%/年（三次救急） 94.3%/年（二次救急）</td></tr></table>	R7指標	R7実績	【セ】救急車受入台数：5,400 件/年 ※高度救命救急センター（三次救急）とER 部（二次救急）の運用一体化による救急患者応需体制の強化	【セ】5,878 件/年	◆手術件数： 【附】7,500 件/年 【セ】9,600 件/年 ＜中期計画：【附】7,500 件 【セ】9,600 件/最終年度＞	【附】7,813 件/年 【セ】10,183 件/年	◆先進医療申請のための先行研究着手件数： 【附】1 件/年 【セ】1 件/年	【附】2 件/年 【セ】1 件/年	◆救急応需率： 【附】90%/年 【セ】90%/年（三次救急）、90%/年（二次救急） ＜中期計画：【附】90% 【セ】90%/最終年度＞	【附】95.1% 【セ】97.1%/年（三次救急） 94.3%/年（二次救急）	S
R7指標	R7実績											
【セ】救急車受入台数：5,400 件/年 ※高度救命救急センター（三次救急）とER 部（二次救急）の運用一体化による救急患者応需体制の強化	【セ】5,878 件/年											
◆手術件数： 【附】7,500 件/年 【セ】9,600 件/年 ＜中期計画：【附】7,500 件 【セ】9,600 件/最終年度＞	【附】7,813 件/年 【セ】10,183 件/年											
◆先進医療申請のための先行研究着手件数： 【附】1 件/年 【セ】1 件/年	【附】2 件/年 【セ】1 件/年											
◆救急応需率： 【附】90%/年 【セ】90%/年（三次救急）、90%/年（二次救急） ＜中期計画：【附】90% 【セ】90%/最終年度＞	【附】95.1% 【セ】97.1%/年（三次救急） 94.3%/年（二次救急）											

7 年度実績の主な取組		評価委員会の主な意見（○：特に評価できる点　●：改善すべき点）		評価														
IV　法人経営																		
4．教職員エンゲージメントの向上【評価結果：13ページ】																		
＜ダイバーシティ推進について＞ - 各種取組の実績確認や「教職員意識調査」の結果を踏まえ、新たなダイバーシティ推進計画を策定した。 - 障害者理解研修等を実施するとともに、法改正を踏まえた出産・育児関連リーフレットを更新し、学内に周知。 ＜医師の働き方改革について＞ - 勤務状況アンケートを実施し、長時間労働の実態把握を進めた。 - 医師事務作業補助者等他職種へのタスクシフト・シェア、各診療科部長宛に時間外・休日労働時間実績の配信と部長会での情報共有、補助金を活用した勤務環境改善等を実施。		○「<u>教職員意識調査</u>」における「<u>ダイバーシティ推進関連</u>」の項目における評価数値は<u>前回(令和4年度実施)よりも上昇</u>している。 ●障害者の法定雇用率の達成については、雇用計画の着実な実施が必要であり、また、<u>ダイバーシティ推進</u>に関する<u>教職員の意識は高くなっている</u>が、実際には、<u>障害者雇用率、配偶者の出産に伴う休暇取得率が目標を下回っている</u>ので、有効な施策が必要である。 ●教職員エンゲージメントの向上は大学価値向上の上で重要であり、「<u>教職員意識調査</u>」とその結果は<u>重要視</u>されるべきものと考え、<u>回答率が低く改善が求められる</u>。																
		<table><tr><th>R7指標</th><th>R7実績</th></tr><tr><td>◆教職員意識調査(人事制度・キャリア形成関連)： 評価2.2 点以上/4 点満点</td><td>2.4 点/4 点満点</td></tr><tr><td>◆教職員意識調査(ダイバーシティ推進関連)： 評価2.7 点以上/4 点満点</td><td>2.82 点以上/4 点満点</td></tr><tr><td>◆障害者雇用率：2.8%/年(法定雇用率)</td><td><u><未達></u> 2.52%/年</td></tr><tr><td>◆配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の 取得率：100%/年</td><td><u><未達></u> 87.5%/年</td></tr><tr><td>◆医師事務作業補助者数：【附】44 名【セ】48 名 <中期計画：【附】44 名【セ】43 名/期間中></td><td>【附】44 名 【セ】51 名</td></tr><tr><td>離職率：看護職(1 年以内)10%以下/年、 看護職以外(3 年以内)10%以下/年</td><td><u><未達></u> 看護職(1 年以内)：10.6%/年 看護職以外(3 年以内)：14%/年</td></tr></table>			R7指標	R7実績	◆教職員意識調査(人事制度・キャリア形成関連)： 評価2.2 点以上/4 点満点	2.4 点/4 点満点	◆教職員意識調査(ダイバーシティ推進関連)： 評価2.7 点以上/4 点満点	2.82 点以上/4 点満点	◆障害者雇用率：2.8%/年(法定雇用率)	<u><未達></u> 2.52%/年	◆配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の 取得率：100%/年	<u><未達></u> 87.5%/年	◆医師事務作業補助者数：【附】44 名【セ】48 名 <中期計画：【附】44 名【セ】43 名/期間中>	【附】44 名 【セ】51 名	離職率：看護職(1 年以内)10%以下/年、 看護職以外(3 年以内)10%以下/年	<u><未達></u> 看護職(1 年以内)：10.6%/年 看護職以外(3 年以内)：14%/年
R7指標	R7実績																	
◆教職員意識調査(人事制度・キャリア形成関連)： 評価2.2 点以上/4 点満点	2.4 点/4 点満点																	
◆教職員意識調査(ダイバーシティ推進関連)： 評価2.7 点以上/4 点満点	2.82 点以上/4 点満点																	
◆障害者雇用率：2.8%/年(法定雇用率)	<u><未達></u> 2.52%/年																	
◆配偶者の出産に伴う休暇(3日以上)の 取得率：100%/年	<u><未達></u> 87.5%/年																	
◆医師事務作業補助者数：【附】44 名【セ】48 名 <中期計画：【附】44 名【セ】43 名/期間中>	【附】44 名 【セ】51 名																	
離職率：看護職(1 年以内)10%以下/年、 看護職以外(3 年以内)10%以下/年	<u><未達></u> 看護職(1 年以内)：10.6%/年 看護職以外(3 年以内)：14%/年																	

評価委員会の主な意見(○：特に評価できる点 ●：改善すべき点)		評価
VI 地域貢献（横断的項目）【評価結果書：16ページ】		
○リカレント教育プログラムの充実や共創イノベーションセンターを中核とする産官学連携推進が図られていること、また、<u>質の高い医療の提供、地域医療の推進のための各種取組</u>が進められており高く評価できる。 ○<u>高い救急患者応需率など地域医療への貢献が高く、オープンイノベーションの推進や社会人教育など、地域への知的貢献も進んでいる。</u>また、学生が地域貢献の重要な担い手として、<u>積極的に学生ボランティアの派遣</u>も進められている。		A
I 教育	R7指標	R7実績
	3 時代に即した学修環境・学生支援の提供	
I 教育	SDGs 関連取組の課外活動支援数：4 件/年	6 件/年
	ボランティア派遣数：650 人/年	717 人/年
	4 多様で優秀な人材の獲得と輩出	
	看護学科卒業生の附属 2 病院への就職率：60%/年	66.0%/年
II 研究	5 社会人の学び直し	
	「リカレント教育」に係るプログラム設置数：12 件/年	12 件/年
II 研究	2 オープンイノベーションの推進	
	ベンチャー創出累計数：15 件/累計(進捗率 100%)	16 件/年
III 医療	民間企業等との共同・受託研究数：1,101 件/5～7 年度累計(進捗率50%)	1,160 件/5～7 年度累計(進捗率52.7%)
	2 質の高い医療の提供	
	手術件数：【附】7,500 件/年【セ】9,600件/年	【附】7,813 件/年【セ】10,183 件/年
	先進医療申請のための先行研究着手件数：【附】1 件/年【セ】1 件/年	【附】2 件/年【セ】1 件/年
	救急応需率：【附】90%/年【セ】90%/年(三次救急)、90%/年(二次救急)	【附】95.1%/年【セ】97.1%/年(三次救急)、94.3%/年(二次救急)
	3 政策的医療への貢献、地域医療の推進	
	不妊治療件数：【セ】男性210 件/年、女性210 件/年	男性232 件/年、女性258 件/年
	紹介割合：【附】88%/年【セ】100%/年	<未達>【附】84.5%/年【セ】96.0%/年
	逆紹介割合：【附】54%/年【セ】50%/年	【附】60.7%/年【セ】59.1%/年
	外来初診患者数：【附】160 人/日【セ】180 人/日	【附】166 人/日【セ】181.2 人/日
	新入院患者数：【附】18,500 人/年【セ】19,530 人/年	【附】19,870 人/年【セ】20,895 人/年
	4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用	
	特定行為研修を修了し、特定行為に従事する看護師：【附】3 名/年【セ】2 名/年	【附】3 名/年【セ】3 名/年
	初期研修医のマッチング率：【附】100%【セ】100%	<未達>【附】86.7%【セ】96.1%
	特定集中治療室管理料に関わる看護師育成：【附】3 名/年	【附】4 名/年
IV 法人経営	6 課題解決を目指した地域社会との協働の推進	
	地域貢献センター相談対応件数：48 件/年	71 件/年
	市の施策立案等に関わる連携取組件数：40 件/年	42 件/年